

鹿児島大学共同獣医学部 教授 大和 修

平成 30 年 2 月 22-24 日（主要開催日 2 月 23 日）の日程で、ソウル大学（韓国）にて実施された第 9 回アジア獣医系大学合同シンポジウムに参加したので、下記にその概要について報告する。なお、本シンポジウムは 2010 年にソウル大学と岐阜大学連合獣医学研究科（岐阜連大）により開始され、年々、参加大学が増加して現在に至る。山口大学連合獣医学研究科（山口連大）が参加したのは、2013 年からであり、今回で 6 回目となる。開催地は、ソウル（2010）、東京（2011）、ソウル（2012）、東京（2013）、ソウル（2014）、台北（2015）、ハノイ（2016）、台中（2017）、ソウル（2018）である。

今回は、韓国、日本および台湾の 8 大学院（ソウル大学、岐阜連大、山口連大、東京大学、アジア大学、国立台湾大学、国立中興大学、国立屏東科技大学および国立嘉義大学）等からの参加で実施された。6 つのキーノートレクチャー、32 の口頭発表および 46 のポスター発表が行われた。鹿児島大学からは参加者は、教員として私（大和修、口頭発表の座長）の他、須永隆文、井尻萌および永井克尚（敬称略、ポスター発表審査）で、学生は草木迫浩大くん（口頭発表）であった。シンポジウムの閉会式において、賞が数名の口頭発表者およびポスター発表者に授与された。

シンポジウム終了後に、2017 年に新築されたソウル大学動物病院見学ツアーが実施された。ソウル大学は、AVMA による認証を目指しており、すでに CSV を終えて、公式訪問に向けて準備しているところであるが、新病院建設はそのための一環であり、多くの点で高度な臨床教育に見合った構造および設備となっていた。

本シンポジウムの前夜（2 月 22 日）のレセプションパーティー（ビアレストラン）ならびにシンポジウム当日夜のディナー（焼き肉）では、各国の多数の参加者（教員および学生）との研究・教育交流が行われ、今後の国際交流の発展に非常に有意義な機会が得られた。

なお、本シンポジウムは、2018 年度以降日本の岐阜連大および山口連大の組織が改編されるものの、今後も発展的に継続されることとなり、来年は岐阜連大が主催することが決まった（2019 年 2 月に開催予定）。日本の大学も多くの教員と学生が参加して、より積極的に本シンポジウムの開催や運営に関わり、重要な役割を担っていかねばならない。



開会式（副学部長挨拶）



ポスター発表（通路）



閉会式（表彰）



動物病院ツアー